

日圓の墓

匠瑗探訪

157

江戸時代、飯高村の日蓮宗・飯高檀林には近在近郷からも多く学徒が集まりました。

その一人、日圓聖人は飯高生まれで、妙福寺や飯高檀林が開かれた頃に学び、1603(慶長8)年には飯高第4世の化主(学長)に就任しました。

前後して、日圓は飯高の後継争いを避け、中村(多古町)の日本寺(中村檀林)に移りました。中村では日圓を慕う学徒が多く集まり、「学室開祖」として尊崇されました。しかし、1605(慶長10)年6月4日(新暦では7月19日)、39歳の生

涯を飯高の地で終えました。
埋葬されたのは現在の県立飯高特別支援学校の程近くで、そこは「日圓上人塚」と呼ばれ、史跡として市文化財に指定されています。

日圓の死を巡っては、飯高から中村へ帰る道中に安久山で飯高檀林の学徒によって殺害された、との伝説もあります。

この上人塚は、中村檀林と中村西谷集落の信徒によりまつられ、守られてきました。

平成16年7月には四百遠忌を記念して『惠雲院日圓聖人と中村檀林』(都守基一編著)が出版されました。その際、関連資料が紹介されその生涯が明らかになりました。

【訂正とおわび】

本紙5月号掲載の記事で、「平成天皇」とあるのは「上皇陛下」の誤りでした。訂正し、おわびします。

(市文化財審議会委員・

依知川雅一)

間秘書課広報広聴班

☎73・0080



飯高の日圓上人塚